大杉神社奉納額

［市指定有形民俗文化財］

社殿の中には、明治十八年(1885)九月吉日に新河岸川を通じて荒川・江戸川・利根川・中川・鬼怒川など関東各地の船頭約百人の名入りの天狗の面付き(2面)額が奉納されています。右側がからす天狗、左側が赤顔長鼻の天狗です。木製の奉納額は、縦100センチメートル、横215センチメートルの大きさです。

明治11年(1878)創建 改築前の大杉神社

市指定文化財 大杉神社の奉納額

梅年句碑

「兎角して、来須に盤おかぬ、し九連哉」

明治時代に日本の俳壇において重きをなした俳人の一人、雪中庵梅年の句です。

梅年は、文政四年(1821)現在の川越市並木の小林家で生まれました。父親と早く死別し、下福岡にある母親の実家の原田家で育てられ、原田幸次郎と名乗りました。川越での足袋職人修行の後に、江戸深川で足袋店を営み、そのかたわら俳諧を学びました。

天保八年(1837)十七歳で松尾芭蕉の系譜を引く雪中庵対山の門下となり、明治七年(1874)に八世雪中庵を継承し、引退後は不白軒を名乗りました。

晩年の梅年は、東京と福岡村(現在のふじみ野市)をはじめ、川越南部から入間郡東部一帯の地域との間を往復して熱心に活動しました。

昭和四十六年一月、雪中庵梅年顕彰会と福岡町教育委員会(当時)は、当地方における俳諧の伝統文化を遺した梅年の功績を讃え、後世に伝えるために句碑を建立しました。